

クエゼリン陣中日誌 (2)

第六十一警備隊司令兼
第六潜水艦基地隊司令

海軍大佐 成田喜代治

昭和十八年

一月二十六日(火) 部署教育

棧橋其他の問題で建築部と協議、潜水艦横付用(給電給水のため)棧橋の延長工事中であった。

一月二十七日(水) 敵タラワに来襲。

午前、八砲砲台対潜教練射撃。腸チフス予防注射。

一月二十八日(木) 副長指導の下にビケージ島及びエニブージ島の機銃教練射撃。

敵機ナウル島及びオーシャン島偵察。

東京市銃後奉公会派遣の慰問団来る。後にも前にもこれが唯一回の慰問団であった。この慰問団が平陽丸でトラック島の至近に達したとき、敵の雷撃(潜水艦からの)により沈没。数時間海上に漂流の後味方艦に救助されたが、団員の内一名溺死、衣裳も道具も失って、兵の防暑服を借用して来た。

一月三十日(土) 兵員集会所で慰問団の演芸会。例に依り二回繰り返し行った。次第次の通り。

- 一、团长挨拶 嶋田 浅蔵
- 二、舞踊 花柳京之助
- 三、奇術 津島 光洋
- 四、浪曲 橘 左近嬢
- 五、アコーディオン 福壽 正二
- 六、歌謡曲 佐藤千夜子

七、漫才 桂 金吾

八、舞踊 松木アオバ

九、歌謡曲 佐藤千夜子
非常な熱演で、兵の感激も甚しかった。

夜私のベランダで小宴を開き、一行を稿った。一行は特技以外のかくし芸などを披露し夜更くる迄歌をつくした。

一月三十一日(日) 慰問団を大島島(ウエーキ)に送る。主計長随行。
午前、相撲。午後、警備及び漁撈会議(注1)。

二月一日(月) 未明隊教練、防火教練、総員集合、故八代司令官等の英霊に黙禱。舟艇点検、柔道講習開始。

監視艇鷹寿丸機関長自毀重態。六潜水艦開隊一周年記念相撲大会。

二月二日(火) 指揮所の件及び海面防備隊の件で司令部訪問。

二月三日(水) 一五KVVA発電機公試。

二月四日(木) 下士官兵進級会議。

軍艦常盤乗組の候補生等砲台見学に来る。マーシャル神社設立打合せ。谷口兵曹死亡。上曹に進紙。

二月五日(金) 午前、基地隊で下士官兵進級会議。午後谷口上

曹葬儀。
知床入港。
二月六日(土) 椰子材燃焼実験(注2)。

今明日兵員に映画を見せる。

二月八日(月) 砲台員新編成につき訓示。武器点検。電波探信儀公試。

二月九日(火) 電波探信儀公試。谷口上曹遺骨を知床に送る。

二月十日(水) 豪雨。愛国百一首講話。

二月十一日(木) 勲章授与式遙拜式。午後雨。

二月十二日(金) 雨。柔道講習終了。

電波探信儀公試委員会。二月十三日(土) 大雨。海員休憩所敷地決定。

築城本部より派遣された陸軍士官を晚餐に招く。

二月十四日(日) 大雨午後より晴。ブラウン島警備兵十四名を出発させる。

分隊長講話。軍艦常盤の演芸会。兵員集会所で。

二月十五日(月) 午前陸戦教練。午後銃剣術講習開始。福神丸出港。

二月十六日(火) 午前十二種砲試発射。晩清寿丸出港。

二月十七日(水) 午前、雨。午後、神社地鎮祭(注3)、小官祝詞を奏す。

二月十八日(木) 西哲雄少佐タロアより帰国の途立ち寄る。夜会食。

昼光幕映画を見たが、よく見えぬ。

二月十九日(金) 午前陸戦教

練砲巡視。富士川丸船長来訪。
二月二十日(土) 第二愛国丸で帆走しクゲジャガエン島に至る神社見廻り。

西少佐及び郵便所長と東海岸で満月を賞し杯を挙ぐ。

二月二十一日(日) デング病の気味なりしも本復したらしい。三根司令官来島。

二月二十二日(月) 隊内点検、第四砲台巡視。銃剣術講習を見る。夜西少佐を招く。

二月二十三日(火) 早朝、陸戦教練。

二月二十五日(木) 午後、船員休憩所に関する会議。

二月二十六日(金) 銃剣術講習巡視。転任する数名の准士官以上のため送別会を開く。

二月二十七日(土) 六潜水基の主計兵長が昨夜北棧橋の突端から入水自殺したのを早朝発見。

クゲジャガエンの江りに愛国丸を曳き揚げ修理。

野外運動会。

二月二十八日(日) 銃剣術講習終業式。

野外運動会及び演芸会。参考

註1 漁撈会議 監視船として、警備隊に附属している漁船は個々の船員が漁具を積んだまま徴用されているので、軍務の序に漁撈を行えば、警備隊員の食料を充分まかなえるのであるが、漁具は古くってポロポロになっ

て居る。一方兵士の食料は途々故国から軍用船で送って来るのである。私は「缶詰の魚や肉を送る代りに、漁具を更新して欲しい」と軍需局宛に申し上

る。

軍需局から「大変よい意見を頂いた。早速そのように取計おう」と返事を貰ったが、私の居る間には漁具は来なかった。

又砂地の蔬菜農業について、パラオの南洋庁宛に指導を求めて手紙を出したが、これも早速返事がありいろいろ教えて貰ったので各分隊の畠掛りにそれを知らせて実行させた。

註2 椰子材燃焼実験、椰子は飛行場の拡張、砲台の射界清掃等で夥しく拔捨てられるのである。これを海に捨ててもすぐ海岸に流れ着くので仕末に困る。椰子は割っても燃えない。一方無けなしの船腹に内地の薪炭を積んで運んで呉れている。

そこでこの椰子を木炭に焼いたらば燃料になるかどうかを実験して見たら結構使えることがわかったのである。そこで本式に電を築いて炭焼きをやった。兵には色々な専門の経験者が居るのである。

註3 マーシャル神社地鎮祭に私は次の旋頭歌四首を読んだ。
久方の天照の神を斎き奉らむ
若緑常盤の社を斎ひ鎮めて
宮柱太知り立てひ底つ岩根に
白玉の真玉の凝れる

底つ岩根に荒潮のこほろ／＼に凝りし玉島旗薄秀に置く露も
汚れあらしな
伊吹戸の科戸の神の祓ひ賜はな
椰子の葉に標めし標縄
しるくそよかぜ
(つづく)

靖国神社御創立

百年記念大祭参列記事

明治天皇の畏き大御心によって明治二年六月二十九日九段坂上に靖国神社が御創立せられたるから本年が丁度百年の記念すべき年で、記念大祭が十月十九日から二十二日まで行われることは、環礁第9号でお知らせしました。

私は百年記念大祭の前日十月十八日の本年度秋季例大祭、十九日の御創立百年記念大祭第一日の儀及び二十一日の第三日の儀の三日の御案内をいただきましたので、三回とも参列いたしました。

本殿には秩父宮、高松宮、三笠宮、常陸宮の四宮家からの幣帛が供えられてあります。拝殿へのぎざはしの上り口には向って右に全国知事会会長 桑原 幹根殿 参議院議長 重宗 雄三殿 総理大臣 佐藤 栄作殿 又左に 衆議院議長 松田 竹蔵殿

厚生大臣 齋藤 昇殿
日本遺族会々長 賀屋 興宣殿
の献げた大きな榊が飾られてあります。
式の次第は三日とも午前九時参列者全員拝殿に着席につづいて、当日奉仕の筑波宮司以下二十名の神官が着席しました。
次筑波宮司開扉
次献 饌
次筑波宮司祝詞奏上
次十八日は秋季例大祭でしたので勅使の参向があり、このとき拝礼十九日は百年記念祭、二十日に天皇、皇后両陛下の御参拝があるので、勅使の御差遣はありません。

次十八日は例大祭いつものとおり武蔵野音楽大学混声合唱団の鎮魂頌唱(歌詩環礁1号)の十九日は警視庁音楽隊の「靖国神社の歌」奉奏

九段の母

白桜会編 (思い出の軍歌 唱歌集より)

上野駅から 九段まで
かつて知らない じれったさ
杖をたよりに 一日ががり
せがれきたぞや 会いにきた

両手あわせて ひざまずき
おがむはずみの おねんつ
はつと気づいてうろたえました
せがれゆるせよ 田舎もの

空をつくよな 大鳥居
こなりつばな おやしるに
神とまつられ 勿体なさよ
母は泣けます うれしさに

とびが鷹の子 うんだよで
今ぢや果報が 身にあまる
金鶏勲章が みせたいばかり
逢いに来たぞや 九段坂

次宮司玉串奏奠拜礼
次靖国神社崇敬者総代拜礼
次厚生大臣、日本遺族会々長、琉球政府副主府等の拜礼
次拝神の曲「国の鎮め」
次参列者全員数回にわかれ昇殿参拝
という順序で取行われました。
国の鎮めのおわりますまで四十分程の時間いつも乍ら緊張しきつ

千鳥淵戦歿者墓苑十年祭

このお墓は国家で建てたもので、いわゆる諸外国の無名戦士の墓に相当するものであります。お墓に納められている御遺骨は主として戦後、政府が各戦域から収集した象徴的御遺骨であります。

お墓の本屋である六角堂には、地下室内に二十四の御遺骨壺を安置し、各戦場の象徴的御遺骨をお納めしてあり、更にその全体を代表する御遺骨を、天皇陛下から賜った金銅の御壺に入れて、中央の陶棺にお納めしてあります。

昭和三十四年三月二十八日、天皇、皇后両陛下の御臨幸を仰いで政府主催の竣工式と支那事変以降の全戦歿者の追悼式が行われました。その後六年昭和四十年三月二十八日も両陛下の行幸啓を仰ぎました。

御製
国のため 命ささげし 人々の
ことを思えば 胸せまらるる
(墓苑法人千鳥ヶ淵戦歿者墓苑)
今年はこの千鳥ヶ淵戦歿者墓苑

た戦歿者一人一人に面接しているような感慨無量な時間でした。崇敬者代表の挨拶の際にも力強くいわれたことは一日も早く、国家護持が制定され、独立国である以上、世界の独立国がそいうであるように、国に命を捧げた殉国者は当然国がそれをおまつりするとうい、はつきりした道が出来上ることを祈りました。

の創立十周年になるので、十月十八日土曜日午後墓苑奉仕会主催で創立十周年記念全戦歿者慰霊祭が催されました。私にも御丁寧な御案内状をいただきましたので、幸榮に存じ参列いたしました。
当日は別項でのべました通り、靖国神社の秋季例大祭当日祭の日でありました。

私は十時三十分神社到着の玄関を出たあと境内の能楽堂前で、奉納芸能大会を見入り聞き入りしました。この日の奉納芸能は吟舞、琵琶、扇舞、古武道といったもの時間さえ許せば四時三十分からの国性文芸会の奉納する国性芸術もと思いましたが残念でした。

千鳥ヶ淵墓苑は、靖国神社からですと、ゆつくり歩いて十分とはかかります。好天に恵まれた九段の町をぶらぶら歩き、定刻よりはかなり早く墓苑につきました。六角堂前に整然と並べられた椅子千脚を超えておりましたらうか。一昨年現地から迎えた御遺骨はじめ本会のすべての英霊、江田

島の級友、私の弟もこの中に眠っているのだと、次から次にいろいろのことが頭の中を駆けめぐりました。
咳声一つない静けさを破って陸上自衛隊音楽隊の奏する「愛国行進曲」が流れ瞑想が破れました。その途端又私の頭の中は、一昨年訪れたタラワ島、米兵が多数倒れたというあの広漠としたリーフ、海岸広場のタラワクラブでウィークス長官はじめ多数島民が口を揃えてこの愛国行進曲を高らかに合唱し、私共を迎えてくれたあの雰囲気が一ぱいになりました。それが三分位であったか四分位であったかわかりませんが本心に夢を見ているような気持でした。

開式の辞、工藤奉仕会会長の式辞、つづいて佐藤内閣総理大臣の追悼の辞がありました。つづいて秩父宮妃殿下の御拝礼と共に一同で拝礼、黙禱を捧げ、国歌君ヶ代の斉唱があつて後妃殿下は退下されました。
式は次第に進み、陸上自衛隊航空自衛隊の各代表部隊の参拝が行なわれました。久しぶりに接する軍隊の部隊参拝として次が海上自衛隊音楽隊の慰霊演奏「命を捨てて」航空自衛隊音楽隊の慰霊演奏「国の鎮め」が、六角堂陶棺の前でしめやかに演奏されました。万感胸に迫るとはこのときのための言葉と思えました。
ついで各代表の献花その中には外国使臣、思い出すまに書きますと、カナダ、イギリス、アメリカ、フランス、インドネシア、タイ、韓国、ベトナム等の諸国でした。

靖国の神に捧げる

山口県徳山市 小住 龍
44・2受

◇クエゼリン島戦歿者の妻
「英霊は呼んでいる」「クエゼリン島」の見出しに吸い込まれるように新聞記事の活字を追ってみると

「まだ眠る七千柱の霊、二十年前に全員玉砕、遺骨収集の願い高まる」との四段見出しの記事を、がむしやりに読み下したのは、今年半ばのことでした。

記事によれば、その年、二月六日に靖国神社でクエゼリン島戦歿者二十年祭が行なわれ、約千人の遺族の方々が集りになったこと、また玉砕当時の様子等々特に次の記事はぐさりと心にさされた一節でありました。

「北千島やソ連、東南アジアでの戦歿者の遺骨収集はあられすんだが、まだ一か所全然手のつけられていない島がある。六千七百余の玉砕の地クエゼリン島だ。南海の孤島に散った英霊を慰めようと遺族の間に遺骨収集の願いが高まっているのはいつのこの悲願が達成されるのはいつのこの悲願であろうか。また原生省は昨年「遺骨収集作業は一応終了したことにする」と発表された。その結果クエゼリン島に眠る英霊を現地で弔うことは半永久的に不可能とみられるに至った。遺骨収集の妨げとなるいろいろの事情の一つは現在クエゼリ

ン島は米軍のミサイル基地となつてゐること等、しばしばう然とたずんで記事を手にしてはいる私も氣をとり直して早速浮田様にお便りを頂きまして、あれから五年後の今月今日同じ想いを抱く私たち遺族三百五十余名は、北から西からと九段をさして集まつてまいりました。

お集りのご遺族の中には、もうすでにお顔なじみの方々もいらしゃいまして、またたとえ今年はいじめた方であつても永年同じ想いを抱く者同志としての心のつながりは、その語らいの中にもうちとけ通じあつた雰囲気で十分伺い知ることができました。

南海の孤島に眠る英霊を現地で弔うことは半永久的に不可能とみられていた難行苦行が夢でなく、現実を実現したのであります。

遺族の全員が、どんなに安どの胸をなでおろした事でございませうか。しかしそのかげには、お世話頂いた皆様方特に常任幹事の浮田様、佐藤様そしてまた女性の御身で、はるばるマーシャル方面へお出むきいただいた佐竹様方の御苦労はとてむき舌につくされるものではないと存じます。本会発足以来五年の間に、遺族の心を心として、しかも思慮深くかつ勇敢に各方面に働きかけて頂きました浮田様、佐藤様またマーシャル方面の御関係をおもちだった方々の御協力こそ不可能を可能

になし得たのだと確信いたしました。そしてその心は人種をこえ、敵味方を超越した協力の形となつて今日の成果を見るに至つたのだと思ひます。

二十五年前口惜しく散華された皆様安らかに眠り下さい。そして

昭和四十五年二月六日

靖国神社での慰霊祭等御案内

一、日時・場所

昭和四十五年二月六日(金)
午前十時三十分
靖国神社

(あとの行事の關係がありますので午前十時十五分までに、靖国神社参集所に到着なさるようお願い致します。

二、行事予定

昇殿参拝
定期総会・昼食(九段会館)
懇親旅行(希望者のみ)

一、現地派遣員報告(旅館)
二、観光
三、その他

(1) 受付

靖国神社参集所支関で午前九時からはじめます。

(2) 霊砂受領希望の方へは、当日受付でお渡ししますので、同封はがきで、予め御申込み下さい。

(3) 九段会館に五日、六日宿泊希望の方のため、五十人分宿泊の予約しました。ご希望の方は同封はがきで至急お知らせ下さい。先着順に決定します。

て南十字星の輝く下に、まっ青の海にのぞんでいつまでも平和をを守り下さい。
遺族の皆様、今日を感謝し、今後ますます手を取りあつてまいりましょう。

つたない筆先にまかせ想いの一端を述べさせて頂きました。

日 程

二月六日(金)

〇九〇〇 受付開始 靖国神社
一〇三〇 慰霊祭
一一〇〇 終つて九段会館へ
一一三〇 定期総会と昼食
一三〇〇 解散・懇親旅行出発(希望者のみ)

懇親旅行概要
九段会館の中庭に待機している貸切りバスに乗り、ガイドさんの説明を聞きながら東名高速道路を通り、箱根経由 伊豆修善寺温泉

宿泊料は一人二食付千五百円です。一月十日までに、本部あて御送金下さい。

三年程前から、本会に、慰霊祭だけでなく、懇親旅行をするよう多数の御提案がありましたので、今年はいじめた計画しました。大体の構想は二月六日慰霊祭、定期総会のと、伊豆の修善寺温泉で、直会を行い、翌日附近の観光をし、昼食後解散する。

この旅行の企画は、佐藤常任幹事の御長男雅敏さんと岡野監事が担当し、張り切つて準備に當つておりますが、修善寺の夜の直会を思い出多い楽しいものとするため参加者の御希望、御意見を沢山頂きたいとのことです。どんなことでも結構ですから、一月十日迄に本部までお寄せ下さい。

の水月ホテルに向います。
宿所 水月ホテルの館主は海軍經理学校卒業(28期)の野田照様で、本会の申込を快くうけて下さいました。全従業員心から御待ちしてゐることです。

ホテル到着後現地報告会の後、直会をいたします。
感想発表やお国自慢、のど自慢の御披露を期待しております。

翌七日、修善寺の名所、旧蹟を見学し、貸切バスで伊豆の名所を寄り寄り、夕刻東京に帰ります。貸切バスで御都合で帰路途中下車は御随意です。

参加費は宿泊料(一泊二食付)バス代・七日の中食代(一切を含めてお一人四、五〇〇円)であります。御希望の方は一月十日迄に料金添え本部あてお申込下さい。

旅行は始めてのことで見当がつかせないので、今回は五十五人と手配をいたしました。従つてお申込み先着順五十五人を以て締切りますので予め御了承下さい。

御申込者の全員に、お引受けできるかどうかの御返事をさしあげます。お受けできない方の参加費はお返し致しますが、お引受けしてから御欠席になった時は、お返しできませんので予め御含み下さい。

マーシャル方面遺族会 会員の声なき声

◇ウオッセ島戦歿者の妻

北海道小樽市 尾崎 キエ 43年12月

先日は思いもかけず御懇切なるお手紙並に夫の眠るウオッセ島の霊砂と美しい貝まで御送り頂き、暫しは言葉も出ぬ程感激にむせびました。本当にありがとうございます。早速会に入会させて頂き

さて昨年四月佐竹様と数々の苦難の船旅を続けられ、半年にもわたる長い月日を以って慰霊の大任を果されたお二人様には何と御礼を申し上げたらよいのか其のお心の偉大さに唯もう頭の下の思いで、一ばいでございます。

昭和四十年十二月に元の住所相生町宛に御送り下さいました由、切角のお心づくしも、当時既に現住所に移転してしまいましたため不幸にも返戻されて、昨年マーシャル方面慰霊云々の新聞記事を見るまでは、このような立派な遺族会のあることも存せず、他地域の慰霊の記事を見る度にマーシャル群島の文字が無いかと胸をつかれていたものでした。

それが突然の昨年の新聞記事を見ましたときは、マーシャルという文字がいきなり私の目に突きささったような気持ちでした。ともかくも、あわててしまった私は、同じ女性ゆえと前後もわきまえぬ甘えをもって佐竹様にお手

紙をさし上げた次第でございますが、船出を控えてどんなにか御多忙でいらつしやうたであらう佐竹様からお葉書を頂き、それのみか現地よりも航空便にてそれはそれは詳しく細やかに、ウオッセ島の慰霊のすべてのことを、お報せ下さいました。遺された者の心の隅々までよく知ってお出であればこそ、あの苦しい旅の中から、あのように、お心のこもったお便りを下さったのでしようと思いません。今も尚昨年あの時の嬉しさは胸に新しくよみがえってまいります。

創刊号よりの環礁八号までを、

隅々まで全部読ませていただきました。中でも三号四号に記載されております千葉秀夫様の記事は、戦時中の戦場の有様や、戦死当時の悲惨であった毎日を、実に詳細に知ることも出来て、長い年月の心の曇りが、次第に薄れ行く思いでございます。御送り頂きました同島のお写真も、共に、浮田様の御心づかいの細やかさが身にしみ、どんなに感謝してもしきれない程に存じます。私の友人でやはり御主人を此の戦争で、失はれた方ですが、環礁を読みまして、こんな心の中をこもった遺族会があったのかと驚き感動して居ります。この次に、是非また見せてくれるようにといわれました。直心は必らず人の心を打つものな

手国の人々さえ協力し激励さえて下さいましたことを知り、戦争というものが、この世にあること、が、不思議にさへ思はれてまいります。浮田様長年の御努力が実り、あのような立派な慰霊碑が完成され、主人の霊も記入されましたことまことにありがとうございます。幾重にも御礼申し上げます。のみでございます。

◇タラワ島戦歿者の妻

熊本県鏡町 植村よしえ 43年2月

今日は思いがけなく、亡き夫の奮戦し、そして命果てたという、タラワの島の霊砂と貝とを送り下さり感無量でございます。早速仏前にそなへ、去りし日の思いに出に胸一ばいでございます。何一遺品もなく、さみしい思いでございます。今日、今日は亡き人と逢えたような懐かしい思い、嬉しい思い、本当に本当に有難うございました。亡き人もきつと魂は懐しい我が家へせめて砂でも貝でも届いた事をよるこんでいることでしょうか。元気な時は海岸のあのような綺麗な砂をふみ乍らきれいな貝等とりましたこともありました。し

よう。暇の時は海岸の貝取り又オコゼ（日本でオコゼという魚）とそっくりの魚という魚も取りに行くという様な便りをくれたこととございました。 激しい戦争がはじまったとき、きれいな砂も貝も砲弾で血にまみれたでしょうが、今は静かにきれいな事で行って見たい、せめてタラワの島に行つて見たい、せめて島の土でも欲しいとの念願でし

た。 思い掛けなく砂と貝とを手にした 今日何とも嬉しさでございます。誠にありがとうございます。静かに静かにタラワの島で果てられた皆様の霊の眠られますことを念じつつ

◇マロエラップ島戦歿者の父

新潟県高田市 山岸 泰二 43年2月

さてこの度は浮田、佐竹両幹事殿マロエラップ島現地において採集されました霊砂をお送りいただき、その上また記念品（現地採集の上内地お持帰りには幾多至難の事柄が多かつたことと推察いたしております）まで御惠贈下され、皆々様の格別のご高配に対し心から厚へ御礼を申し上げます。 現地の情報は環礁により拜見させていたしておりましたが、浮田、佐竹両幹事の並々ならぬ活躍に対し、深甚なる敬意を表しますと共に今後共よろしく御指導を賜りますよう伏してお願ひ申し上げます。

◇タラワ島戦歿者の妻

鳥取県岸本町 藤原 照子 43年2月

現地の霊砂を又貝共にお送り頂きまして誠にありがとうございます。何か主人が帰って来たような気持ちで、そして、私達遺族の為に、多忙にもかかわらず、お世話下さいます皆様のお心を深く感謝させていただきます、受取らせていただきまし

た。 貝は毎日身につけさせていた

く考えてございます。 一人でも多くの方が、こうした私のような喜びを得られます様ながくお世話下さいますことをお願い申し上げます。思うことが充分に申上げられませず申訳けございません。本当にありがとうございます。

◇エビゼ島戦歿者の妻

大阪府東大阪市 堀家かつ江 43年2月

さて過日は御無理を申し上げましたエビゼ島の霊砂をお送り下さりまして、誠に有難うございました。この砂の中にはエビゼ島で玉砕した英霊の血汐が溶けこんでいる様に思はれてなりません。この霊砂が奇しくも去る一月二十八日二十五回忌を営んでいるときに届けられましたのも仏縁の有難さと感謝いたしました。厚く御礼申し上げます。早速仏壇にお供えして供養致しました。又同封の貝二ヶもありがたく頂きました。

この貝を見た瞬間、亡夫から椰子の実とこの種の貝十数個が送られて来たことを思い出しました。惜しいことに空襲で焼失してしまつたことが年と共に残念でならなかつたのでございます。それだけにとでもうれしくて、思い出は、二十五年の昔に帰り、懐しく存じました。御芳情のほど重ねて御礼申し上げます。 環礁七号に掲載の佐竹様の「エビゼ島の思い出」はともうれしく、なつかしく読ませて頂きました。長途の御旅行はどんなにかお疲れなさいました事とお察し申し上げます。

◇ブラウン島戦没者の母

石川県金沢市 高山 もと

43年1月

環礁毎号お送り下さいましてありがとうございます。毎号読みながら皆様各位の苦勞が身になります。私共なに一つとして協力できないことが、ほんとうに残念です。今後の会の事は皆様の御意見におまかせします。

現地派遣員帰還報告をよみ、つくづく頭の下る思いです。私方戦死者高山友吉は、ブラウン島で亡くなられたようですが、なに一つ形見の品物として、遺骨一つありませんのでせめて、現地からお持ち帰って下さいました靈砂を少し送っていただけませんか。

年老いた祖母が母として、せめてもの形見として祖父と一しょにお寺にお預けしたいと云っておられますから。七十八才の年老いた祖母のためよろしくおねがいします。私達の父も南方のセレベスで戦死なさいました。

父の遺骨は送っていただきましたが、友吉の方は何一つありませんから、祖母の心をなぐさめるとして靈砂を送って下さいませ。

◇ブラウン島戦没者の姉

東京都中野区 鮫島 操

43年1月

昨年是一方ならぬお世話になりました。二十二年追悼の碑一つない南の島に墓を建標て、いただき靈砂を迎えることのできましたのは、皆様方のお骨折の賜と深く感謝いたしております。加賀様の御口添えて貴会を知りましたが、年

令の故か涙もろくなっておりますので初めてお逢いするのに、取り乱して思い、遂々一度もお目にかかりませんでした。この前のマリーシャル方面遺族会に参加し、隣席の未知の方と同じ想から、咽び乍ら話し合い、スライドを拝見し、永年の胸のしこりも解けました。

捧げもつ靈砂を拝みながら合唱した「海行かば」もときれとぎれでございました。

◇タラワ島戦没者の妻

兵庫県西宮市 江坂 富子

42年12月

今年もあと僅かとなりまして、厳しいお寒さに加えて、あわただしい一日一日でございます。唯今は待望の環礁7号御惠贈きまして有難う存じます。とりわけ本号は佐竹様とお二人にて、遠く南の島々を数ヶ月に亘り、遺族の念願を両肩にお荷ない下さいまして、氣候不順の各地を心ゆくまで御慰霊り、いただきました尊い御奉仕の、み心づくし、ただ、涙と共に嬉しく勿体なく有難く何度か泣き止めて拝読させていただきました。私達小さな個人では、あせっても、もがいても、到底なし得ないこの度の御行事さぞかしさまざまの御苦心御難儀、数えきれぬほどございました。死ぬまでに一度でいい、亡き人

の涙をのんで逝いた。その地に足を踏み、手に砂を握り、今まで、ためておいた愛惜の涙を全部流して、ありったけ心で、ないて見たあの当時の念願でございました。年を至るにつけ、それは丁度夢のような、到底実現不可能の儂い願ひ事であることをしみじみと我が身に思い知らされました。やはり、靈魂となつて、迎り行くしかないかと半ば以上諦めておりましたこととて、その私達の心をそのまま胸に抱いていただき、彼地に於て仕のこりなき迄の行き届いた御奉仕を頂き出した嬉しい嬉しいうお知らせやはり、何も申上げる言葉はございません。唯々嬉しいその一語に尽きる思いでございます。之で明日の日、我身を失いますしよとも思いのこすことさらさらない程の満足感にひたらせて頂いております。重ねて申し上げます。本当に有難う存じました。御苦勞様でございます。お疲れさまでございました。どうぞ御安心遊ばしまして足腰をのばされ、よいお正月をゆつくりとお迎え賜わりますように心からお願ひ申し上げます。私も体の方余り涉々しくございませぬので、十一月はじめから、医師と相談の上毎週二回、試験的に、注射をはじめておられます。五十本打ちますため、来春の五月までかかります。

◇ナウル島戦没者の父

北海道札幌市 浜 権五郎

43年2月

この度は、本会の中部太平洋派遣員が、ナウル島で御採取の靈砂並に記念にお持ち帰りの具御送り下さいまして誠に有難うございました。早速仏壇に供え、遠く南半球まで趣かれ、幾多の艱難辛苦に耐えて採取された御苦勞を感謝して仏前に報告、黙禱を捧げました。

本会本部役員の皆様の御厚志を篤く御福申上げますと共に、浮田様、佐竹様の御苦勞に対し只管感謝申し上げます。御送りの貝は生涯の記念品として、携帯の守袋に付けました。

◇タラワ島戦没者の母

高知県西土佐村 岡村 益江

43年3月

ことしの春は大変きびしい寒さが続きます。環礁をたびたびお送りいただき大変感謝いたしております。亀三郎戦死いたしましたから二十五年になりましたが、その間何一つの手がかりも、有りませず、せめてあのとき戦友であったという人が一人でも生き残って居る人があれば、その方に出合つて見たいと思いましたが、其んな人

は一人もなかったのです。思い出す度に心苦しくなりました。

この度は靈砂を送っていただきましたので、亀三郎の魂が帰って来たと思ひまして、うれし涙がこぼれました。私など戦死者遺族のため会長様はじめ本部役員の皆様方の御苦勞とお骨折りました。お蔭でございます。

此の度につきまして、私共の言葉やぶちょうほうなペン先では、お福の申しようがございません。私は今年七十三才でございますので、それに四国の西のはてでありまして、靖国神社にも行かせて頂くことができませぬ、大変残念で成りませぬ。

其れで私お遺族皆様のように、何もお為に成せておよう頂きます。お金の方でもすこしでも、送らせて頂きませぬならぬのです。私も昨年一月はじめより、八月の終りまで、生死をあらそうような病氣をいたしまして、昨年中かかりまして、お金もつかいはたしまして、去年寄付も送らせてよ頂かなかつたのですが、相済みませんが、今年もようやく千円だけかせいで送らせて頂きます。大変おそくなりまして申訳ございませんが、どうか許して下さいませ。此の上も役員の皆様には、ご無りは申されませんが、この会をつづけていただきませすれば、大変幸せと存じます。(本部より。会員皆様のお力によって、本会は今後もつづけて戦死者の靈をなぐさめてまいりますので、御安心下さって、お休をお大切にして下さいませ)

◇クエゼリン島戦歿者の長女

沖繩県東風平村 神谷ハルコ 44年9月

お尋ねのありました私神谷春子と、幸寿さんとの続柄をお知らせします。私は幸寿さんの娘で、長女となっております。栄さんは長男で、私の弟になっており、男五人でしたが、二十五年前のあの妹一人、弟二人を失い、それに父母迄失ってしまいました。今残っているのは長男幸栄さん、三男四男と私四人が残っております。あのとき、幸栄さんが十三才で三男八才、四男が六才でしたので、とても苦しい目にありました。でも今では弟達も一人前になって、子供達の親として元気にやっております。

◇ルオット島戦歿者の父

広島県、孤独の御老人より 43年1月

私もと四・五年後一度靖国神社に参拜方々おうかがいして、お礼の一言も申し上げたいと思っております。そして父の戦死なさったクエゼリン島の状況も詳しく、お聞きしたいと思っております。その節は、よろしくお願い致します。

年末には、第七号環礁と共に、南方の様子を詳しくお知らせ戴き私も感謝しており、戦死者の霊も地下で嬉んでいる事でしょう。今後共続けてお願い致します。封入のほがきに、会継続の賛否は書入れましたが、私の考えやお願いを一寸申上げさせてもらいます。お知らせ下さった会費の件記入の金額五〇〇円では、必要経費には到底足りないと思いますが、多数の遺族の中には私等同様、身寄りもなく、最底の生活をしている方も、多いことと思っております。会費は最低の五百円としておいて、不足分は、随時寄附として出せるとき出させて戴いたら入会する人も多いかと思いますが、これは私丈の考えで、皆様方のお考へ通りにお願致します。今後の事重ねてお願いいたします。

私のこともっと詳しく御紹介致します。私は大正十五年生れ、昭和二十一年結婚し、九年目に今中学三年の長男が生れ、それから又十三年経て、現在三男になる次男が生れました。年からいえば、おばあさんですが、下の子にはまだまだ手がかりです。主人は農業で養作をやっています。私は子供を育てながら小さい雑貨店をやっております。私は前にもかきましたように七人姉弟の一番上に生れ

ました。家が貧しくて、小学校六年までしか出ておりませんので、本土の方に手紙を差し上げるにも色々言葉使いなどで大へん引目を感じます。大変読みにくい所も多々あると思いますが、あしからず御容赦下さいませ。よろしければ、末永くお付き合いさせていたいただきたいと思っております。(原文のまま)

◇ウオツゼ戦歿者の姉

鹿島県根占町 池来須チエ 43年4月

先日は御親切なお便りに接しながら失礼にうち過ぎ恐縮に存じます。私は戦死いたしました弟来須佐武郎の実姉でございます。父池来須佐湯は昭和十八年二月死亡いたしました。死の前まで弟をよびつづけた母も昭和十九年七月死亡致しました。そして二十年は弟の戦死でございました。昭和十四年一月佐世保海兵団に入隊いたし、六年六月戦地(外地)に勤務しきました。父母もなく、妻子もなかった弟の遺骨を親代りになって受領し、現在なお墓参り、供養も皆実姉として営んで居ります。実姉として国からいただいたのは弔慰金としての五万円債券と、昨年「祖先供養」として三万円債券だけでございませう。戦死いたしました早や二十有余年の月日はあわただしく過ぎてしまいました。一ヶ月で戦死しても親妻子有る人は恩給などいいただき、親なきが故に妻子なきが故に、といつも戦地(外地)に六

うな御意見の相当あったこの御返事の線にそって決定されました。この御意見をお寄せ下さいました御当人もその後会費の外に寄附をお送り下さって運営に本部は極力経費を節約して運営いたしております。篤志会員松平永芳様が環礁第四号の巻頭に「美中の美」と賞して下さいましたが、本会のう賞はしさやはい皆様方のお力と英霊の加護によるものと感激の外ありません。

◇タラワ島戦歿者の母

愛媛県三芳町 松木ミチル 43年1月

私事松木勝市の母でございます。この度は戦死者のために色々、御心労をいただきお礼の申しよたもございませぬ。厚く々々お礼申し上げます。想い出せばすぎし年勝市は昭和十二年一月七日に海軍で佐世保へ入隊致してよりかん(艦)にのり外地へ行ってんと航海をしております。其の時分にたいわんの、ばこうで敵舟にしずめられました。どうにか命をひるい帰りましたが、それよりきさらずの航空隊へ入り、陸戦隊でマキン、タラワと次々に行き、おしまいはタラワ島におちつきました。そして昭和十九年四月三日の午後一時ごろ、二百五十キロのばくだんで即死をいたしました。その時分に重しようけい

しよう者の内に隊長さまがおられました。昭和二十二年の末にもつて帰つてくれました。そのお方は豊後の佐伯の方でした。私もつえとははしらとも思っておりません。先立たれざんねんに思い費後まで用す(様子)を聞きに行きました。そして、くわしい話をききやうと安心致しました。右のしだいでございます。物のいこつが帰りましたので、二かいそうしきを致しました。いでございます。お国のためとはいえ、子にわかれ、一日として、なごやかな日とて有りませぬ。私の上カンセツリニーマチで長年ふせり居ります。手足が思うようにならないので困っています。弟です。何をすることも人たのみで有ります。故お返事もおそくなりましてすみませんでした。あしからずお許し下さいませ。

◇クエゼリン島戦歿者の母

鹿児島県額娃町 蜂須賀芳枝 43年2月

この度は、早速私共の願いを、お聴き届け下さいましてクエゼリン島の霊砂をお送り下さり有難うございました。開封しまして吾が子の血汐に染まったと思はれる霊砂をいただき涙も、新に両手に捧げ伏し拝むことでした。遠く万里の太平洋に浮ぶ小さい島より、それこそ御苦勞をなされ私共の元に返して下さった浮田、佐竹両幹事の方々に心から、お礼を申し上げます。二十年余の歳月を経過しましたが、吾が子のかたみとして末永く仏前に安置し供養して参りたいと思存じます。

◇タラウ島戦歿者の妻

兵庫県西宮市 江波 富子 43年6月

さてこの度は、遠路遙かに、我々のために、一方ならぬご厚配を辱ういたしました事何と御礼申し上げて宜しくございますや、到底、拙い文、届かぬ舌では、この感激の私の思いをお察し頂くことが叶いませぬ程でございます。厚く厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、ああもあるかこうもあるかと心の隅のどこかで落ちつかない日々でありましたがこの度ハッキリと、この眼で亡き江坂激戦の地も見せて頂き詳しいお話も伺うことが出来ましてもうこの世に思い残す事更になく、今後は心安らかな生活を送り迎え出れます。之も全くと二方さまの減私御尽力の賜物故と伏して御礼申し上げます。帰りましたも姉や看護婦さん、お手伝いさん等にお二人の心のこもるお話、数々の御辛酸の思い出など語りきかせ、一同も感に堪えぬ面持にて耳を傾けておりました。

殊に私が今迄、人さまのお尋ねに対し、悲しさの涙をこぼしますと職業軍人だのに、まだまだ民間人や特攻隊で戦死した人々の方がどれ程気の毒で、可憐だかとも、まあ本人は慰めるつもりで言葉でもございませうか。まるで職業軍人は、木の股からでも生れる人間みたいにかんたんには扱われいづも無念の涙をこぼした折もございました。この度お国に殉ぜしものは、等しく殉国者であると仰せいただきました浮田様の御言葉、声

を大にして申しさかせました。

一つしかない命、一度しか生れてこれない生命、まだあるべき寿命を、南海の孤島に、お国のため失いました者が、たとえ職業軍人でありましよう、民間人でありましよう、本人にとりましての尊さ大切さは皆同じでありましようと思っております。本当に之でスウーといたしたので。看護婦さんが、そんなひどい事をいう人があるのですかと眼を丸くしておりましたが、姉は赤くなつて下うつむいて聞いておりました。

私もこの度は、前々から京都参列がわかつておりましたので、体を大切にいたし要心を重ねたいに張り切つて参加させて頂きましたのですが、やはり団体の京都市内観光の行動は駄目でございまして昨夜は久しぶりに少々汗をかきましたので実はガツクリ、少々悲観いたしましたところでございまして。併し昨夜は早くから寝に就きまして、今日は住友病院で注射して貰い元氣恢復いたしましたので他事乍ら御放棄下さいませ。見かけはよく肥つておりますし、少々位の痛み(胸部、背部)は永年の事なので気にもならず、楽天家で笑いに吹き飛ばしておられる性格のため体が弱いと申ししても、信じて頂けない場合多く、このため便利のよい時も悪いときもございしますが、この度も觀光の行動が皆様と終りの方は、ご一緒の行動がとれませず何かこうお氣を悪くおさせ申上げていませぬやと氣にもかかつておりますが、右のような次第幾重にも御諒承下さいませ。

◇ブラウン島戦歿者の弟

埼玉県本庄市 山藤 茂 44年7月

昭和二十年一月に会津若松市で中部太平洋地区の玉碎部隊の遺骨伝達の大慰霊祭が催されました。ブラウン島で戦死した兄の遺骨を受領するため、私の家人がその祭典に参列しました

そのとき参列者全員に別紙の長弔詞が配布されたのだそうです。当時私は満州に従軍していたため私人が写筆して送つてくれました。家はあまりに立派であつたので、全文を暗誦しておりましたが、その後のシベリヤ生活があまりにながく、そのほとんどを忘れてしまいました。今日思い出して書きましたが、これは全体のほぼ二十分の一位と覚えております。字そのものも少し違つてゐると思ひます。どなたの作か存じませんが、何分にも立派な詩で、本会ご遺族の方々には身にせまるものがあると思ひます。

御多忙のところ誠に恐縮ですが何かの機会に、おはらい頂きませば幸いです。鳴乎、そはの父は如何にや老齡なる母は幸や。同朋は健やか吾が子。ひとしを思ふ吾が子。いまだ見ぬ吾がみどり児を。わが妻はせめてものひと目なりとも。見せましものと

ひたすらに思ひいるらん以上が始めの一節ですが、以下満州から船団をくんで出発し、途中この船団に敵の空爆等があり乍らも無事一寄港地に着き、荷役作業等の状況もあり洋上で正月元日をむかえる。

.....洋上の
祝うに餅なく密柑なく
宴とほしもういささかの
酒をなきみつ.....
限りなき想ひの数を
戦友とちらと偲び語らう
海の上の新しき年
楽しひととき

これから目的の島に上陸し、激戦の上全員戦死する迄
.....
凡そ行數に百数十行あり、
中部太平洋諸島で玉碎した将兵の
苦衷がほうふつと詩い上げてお
ります。

◇クエゼリン島戦歿者の妻

北海道旭川市 安達智恵子 43年1月

前文ご免下さいませ。私の今勤めております所が、個人経営の会館なもので、寿司部、仕出し、宴会場等で、勤め時間があつてないような、月三日の休みも中々全体にはならず、早くお便りをと思いつつも、今日ようやく休みがとれましたので、お手紙書いてる様な始末です。

東京の皆様にはいつも、色々とお変な事と存じます。申訳ございませぬ。勤めから、足掛け四年目になります。旭川の遺族会にもほとんど出席が出来ませず、淋しいような感じがいたし

ますが、皆生活の為、年老いてから榮ができるようにとがんばつて居ります。

お送りいただく環礁なつかしく拝見させていただいております。南洋への御出発のことも、新聞で拝見いたしておりましたが、朝早く、夜遅いものですから、中々つかれてしまい、筆をとるのさえ、おつくりになり、申わけなく思つて居ります。

皆様が一生涯懸命になつて、私達がいづも心に掛け、氣にしていた事業を、なして下り、其の御報告まで頂き本当に有難うございました。お蔭様で、私のいづも見る悲しい夢、どこをたづねても、どこへいっても、夫が今どうなつてゐるのか、探しようのない、雲をつかむような悲しい、腹立たしい夢は見なくなりました。

会を運営して行かれることは、中々今後も大変なことと存じます。本当に申しわけないこととは存じますが、私達の心のより所として続けていただけたらと願つております。

◇クエゼリン島戦歿者の長男

兵庫県神戸市 萩原 浩 43・2受

その節靈砂をお願い申上げましたところ早速にお送り賜りまして誠に有難く厚く御礼申し上げます。

亡父クエゼリン島の玉碎が、本日二月六日でございますとか。本年で二十五回忌を迎えました。丁度年回に当たりますときに、奇しくも彼の地の砂を拝受するに至りま

現地からの最近の便り

◆ ジャネット・ミラー
(ミラー司令官夫人)

44年9月受

私共夫婦にお送り下さった、美しい贈り物に対し厚く御礼申しあげます。

皆様方のおとも優しいお心に感じ、私共は、とても感謝いたしております。とりわけ私は日本の着物がとても好きでございます。これはとても綺麗でございます。

明年三月末か四月、休暇をとって日本行を計画して居りますが、もしこれが実現できるようですら、主人共々是非皆様にお目にかかりたいと、楽しみにしております。

敬具

◆ ドン・デー・マッカーフィー
44年8月7日発信

のばしのばしした長い休暇を終えて、米本土からクエゼリン島に帰ってきましたら、あなた方の御遺族会から、私共夫妻にお送り下さった贈物のつまった箱が待っております。とても嬉しうござい

ました。美しい風鈴、時計そして扇子、どれもが大変精妙な楽しい品でした。私共はこの風鈴の音をきく毎

に、そしてこの時計の報ずる時計針を見る毎に、遺族会のことを思い出すことでしょう。

いまここに住んでいる日系米人の方々と一しょに、こんどの島に建てることになった慰霊碑の建

Sincerely
Janet Millar

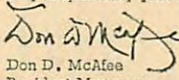
Colonel Millar and I wish to thank you very much for the lovely gifts which you have sent to us. You are most kind and we are very appreciative. I particularly love the Japanese dress It is beautiful. If our plans materialize for a vacation to Japan in late March or April, 1970, Colonel Millar and I hope to meet you

立作業に協力させていただいたことが、私にとって、どんなに嬉しいことであつたかということ、心の底から申しあげますことをお信じ下さい。

重ねて、私共夫妻はマーシャル諸島、ギルバート諸島戦死者遺族会員の皆様にも美事なそして皆様の感謝のまごころもつた贈りものに対し心からの御礼を申し上げます。

これから先、いつなりとも、貴会に対し、私の出来るお手伝いがありましたら、どうか御遠慮なく私にお申しつけ下さい。

ドン・デー・マッカーフィー (マッカーフィー氏はグローバル

Very respectfully yours,

Don D. McAfee
Resident Manager

会社のクエゼリン駐在支配人です。同社は米本土にありませんが、クエゼリンのミサイル実験部隊の建設その他民間の仕事を請負う唯一の会社です)

◆ 徳原(元山田) 徳子

44年9月2日発信
滞日中は徳原共々大変お世話になりました。その上盛大な夕食会を催して頂き、また、結構なおみやげまで頂戴いたしましたして、厚く御礼申し上げます。

羽田出発前夜の浮田様宅での御家族総出の心のもつたおもてなし(佐竹、安藤さんのお手伝いいただきました)はいつまでも思い出として残ること存じます。

私共はホノルルからロスアンゼルス、サンフランシスコと廻り、

ホノルル(徳原さんのご主人の生家)に戻つて、一週間ほど滞在した。二十日にエビゼに帰つてまいりました。すぐに礼状をと思つたのですが、慰霊碑のお参りをすませてからその報告かたがたと思ひ、つ

今日までのびてしまひました。徳原の仕事の都合や、外の人達の都合などあつて、すぐには出来ませんでした。一昨日八月三十一日の日曜日ささやかながら、心のこもつた慰霊祭を行いました。出席者は十人、日本からおあつかり

したお線香や博多名物のおせんべいなどお供えし、冷えたビールやコーラ等を持ち寄り、墓地の清掃をすませたあと、お参り致しました。そのあとお供え物のおせんべいを皆さんで頂き、楽しく雑談いたしました。イナフク氏、ナカシマ氏は毎日曜日欠かさず、墓地を清掃して下さつていられるとか、私達が参つた時は殆ど清掃する必要のない程きれいになっていました。

花の種(月見草)を墓地のまわりにまきました。今度こそ芽が出てくれれば良いと思ひます。残つた種はナカシマ氏が希望されましたので全部さし上げました。御自分の庭に播き度いのだそうです。写真をとりましたので、出来次第お送り致します。

六月下旬ガナンナスノットで託送されました風鈴その他の追加分こちらに届いておりましたので、早速分配致しました。これで品物の分配はすっかり終つたわけ

です。高ミラー大佐夫人へのおみやげは徳原が司令官の事務所へ届けましたが、司令官が生憎不在でした

ので、デスクに置いて来たそうです。浮田様の名刺をつけてさし上げたので、確実に、もうお手許にとどいている筈です。

数日前マッカーフィーさんに道でお目にかかりました折、風鈴のお札を言つておられました。大変美しい音を出す珍しいもので、大切に持って帰りたいとのこと、浮田様その他の皆様にくれぐれもよろしくとのことでした。

永い休暇でしたので仕事に戻つても何となく調子が出ず毎日のように休暇の楽しかったことを話し合つています。ホノルルは観光客やヒッピーが多く、ごたごたした街であまり楽しいところではありませんが、田舎の方へ行くこと、人情がこまやかで、のんびりして住みやすいところだと思ひます。

ロスアンゼルスは、ただもう大きい都会だというだけで、あまり魅力はありませんでした。スモッグがひどく目しみて涙が出る程でした。サンフランシスコは、それに比べれば、はるかに清潔で、落ちついていような感じ

です。特に橋一つ越えたオークランドというところは、私の気に入りました。将来住むならサンフランシスコかオークランドにしようとして来年行きますかどうか。

今エビゼは雨が多く、水不足も解消しましたので、せまいながどらうやら何不自由なく暮らして

す。取敢えずお礼かたがた慰霊祭のお知らせまで。

とかく文明とは

佐竹エス

文明とは人間の知恵が進歩して精神上、物質上の生活が豊で暮しくなる状態であると学び、そう信じ文明文化をありがたく感謝し、ほこりに、思われていた一人です、六ヶ月マーンシャル、ギルバートの生活で感じた事は、文明とは、何と厄介な人間のお荷物だろうと考えさせられたことが、多かつたようです。生活に必要な衣、食、住ですが自然と人生が適度に分けあって生活するのが最上ではないでしょうか。マーンシャルの人は、丁度よく分けあい、ゆずり合って生活していたかのようでした。そこに余計な文明が入って来て却って不幸になっているかのよう、見受けられたような感じさえあります。これは私が思ったことですので真否の程はわかりません。適当にご判断くださいませうお願いいたします。

一、水について

文明社会では水の使用量によって文化生活のパロメーターとすると云われています。私の生活で一番困ったのもこの水でずし、戦争中の水についてのお話はずいぶん聞かされて来ました。この度の訪問に御遺族の方から託された日本の水をマーンシャルやギルバート諸島の各島々の慰霊祭にお供へしました。マーンシャル、ギルバート諸島一帯は、毎日のようにスコール(夕立のような強い雨)がありま

る物がなく地球が円い物体と感じられる船上から、スコールがよく見られます。大空の滝とでも云い度いように大空の一角が薄墨色となり、スコールの場所がよくわかります。日が照り青空の一角が縞模様のように見えますが、場所を変え次々にスコールがやって来ます。私達が花壇に水をやって来よう、南洋の島々には毎日のように天女がお恵みを与えているかのように思われました。スコールがやって来ると風も強く涼しく、爽快な気持ちになります。二、三〇分です。スコールも大体終わりますが、するのとよく虹の橋がかかります。天人の羽衣を思い出されるように白い砂浜、海岸につき出している緑の椰子の大きな葉がスコールにありがとうを云っているかのようになり大きく揺れ動いています。昭和四十二年五月二十四日、クゼリン本島の棧橋(日本軍が作り使用されたのを現在その儘使用)に横浜からの乗船ベンフィック・アイランド一号が横づけになりました。時間もスコールが横づけになりました。間もなく、きれいな虹が二つも懸り私達に、いや御遺族の皆様挨拶に虹の橋を渡り、降りて来られた様に思われました。クゼリン島の棧橋に立ち虹を眺め望遠鏡での日本人墓地の鮮やかな、赤い鳥居は生涯忘れ難い事はないでしょう。

スコールの雨水を溜め飲料水其他に使われず。屋根の雨どい

の水をドラム缶等に溜めてあったり、日本製飛行機のジュラルミンの一部が使われてあったりしていました。又椰子の木やパンの木も自然に豊かに伸びて行くのでしよう。戦争で一時は荒野原だったと聞かされた島々が何処も同じように椰子繁る緑の島、赤白黄色様々の花が年中咲き競う平和な島でした。私達の生活では雨が降ればコートを着、傘をさして用意して行きましたが、南洋の生活には無用でした。雨が降ったら濡ればばいいさの歌の通りです。汗でグッショリなつた衣類や身体をスコールがサッパリと洗い流してくれ

ますし、濡れた衣類も一時間位で其の儘乾きますし、涼しく、しのごよくして呉れます。段々マーンシャルの生活も上手になり頭を洗うのもスコールで出来るようになりました。とてもよい天然のシャワーと思えばよいのですが、始めは頭からズブ濡れになり目もあけられず困りました。同年六月十四日始めての慰霊の島マロエラツブタロア島へ向う小さなボートでスコールに会い、強風雨と高波のためボートは水浸しになり水吸みをしなればボートが沈むため皆なで小さな缶詰の空缶で水を吸み捨てました。スコールがないと飲み水に困るからと船員は雨水を受け飲んでいましたし、何かと思箱を云い度いのは文明人と思つているかも知れません。天然の恵みを有難く受け、自然と共に生活する、マーンシャルの人達に学ぶ処が多いようでした。飲料水も屋根からの雨どいの水をドラム缶に溜めたものですが、私はどうしても飲めま

二、食事について

せん。日本から持参した石油コンロで煮沸したものをポットに入れてあります。井戸のある島でも井戸水は洗濯に使われ飲み水は天水(雨水)でした。生活の豊かな金持の島オーストラリア島やナウル島ではオーストラリアから船で水を運び、淡水のブルーを作つてある南海のオアンスを思わせるような島でも、飲料水は天水(雨水)を使用していました。雨どいの水を大きな水タンクに貯水してあり台所に引かれています。オーストラリアからの水タンクからはシャワー室と洗濯場に使われるようになっているそうです。

天水(雨水)立派な自然が作った蒸溜水と思えば良いわけですが南洋の島々ではその通りの方でしました。衣類や身体が汚れるとか黒くなる事を思われるでしょうが、汗臭くなるだけです。霊砂をお分けしてありますので、お察し頂けるように白いきれいな珊瑚の島です。注射薬や薬を溶くには、わざわざ蒸溜水を作り無菌にしたものが使われているのですから、マーンシャルの天水の方が東京のカルキ臭い水道水より遙かに良質の飲料水なのだからとうとも思いますが又もし風土病(其の土地だけに多い病気)があるかも知れませんし煮沸するのが、一番簡単な方法です。マジエロ島での伝染病で暫く島全体が閉鎖されましたし他の島にも伝染病が発生すると島全体閉鎖するようになります。このよう

な土地柄でもありどなたからも一番御心配を頂きました病気に罹らないようにとの御注意をよく守り元気で過してまいりました。

マーンシャルの人達も現在では殆んど米食をしているようですが、私の考えでは天然に恵まれた生活の方がよかつたのではなかつたかと思われました。マーンシャルへ行くと迄の私は島民の人々は瘦身で筋肉質な海洋民族のイメージでしたが、それに反し肥満体で楽天的な感じの人が多いことでした。病人と云うと瘦せた人と思ひ浮ぶのが我々のはずですが、グラム、サイパン、マジエロの病人は殆んどが太りすぎが多く病院の廊下を歩いている人はお相撲さんか、妊産婦のような人ばかりなので産婦人科ですかと云つて笑われた位です。子供たちはお腹が出ているのでズボンがさがり、オヘソを出してチョコチョコ歩いていますが栄養欠陥(穀粉過多症)と云われているもので、大人の太りすぎも同じようです。ビタミン不足と思われるものが多く、又神経痛のような症状の人が多く食事療法を教えたり持参の薬をあげ治療してあげた人もなくありませんでした。マーンシャル島民(離島)の食事は特に食事時間もなく自然な生活だったそうです。椰子の木が全部を支えていたような感じでした。葉を編んで衣、住に、実は食用に若い実のエキスは天然果汁に次が、ゼラチンのようなものが、ココナツとして油を採る事になります。島民は、これを削りパンの実(さつまいものような味)を食べるとき一緒に食べていました。焼芋をチーズで食べているような味に近くなり、臭いが強く、始めは吐き気さえもようされるようでした。

次が椰子の実の芽が出ているのが椰子リンゴと云って食べていますし、花からは椰子酒、葉の新芽は竹の子のような味がするそうです。又葉や枝や実の外側は燃料でよく燃えます枯れた枝や葉はスコールで濡れても葉をバタバタやり水がなくなるとマッチ一本で火がつきます。硬い内側の殻の焼きかすは立派な木炭のようになり、葉の筋は海水に浸けてさらし、糸に使われています。椰子の木は無駄になるところがありません。トラック島で電氣をつけるのに邪魔になる椰子の木を切らなければならぬと云うことになったが、大事な椰子の木を切られては困ると島民が反対しているので、電線がひけないとも聞かれました。島民の生活必需品は全部自然から与えられ、食べ物は椰子、パンの実バナナ、パイナップル、タコの実、海からは魚、エビ、貝類等が豊富です。とてものんびりしています。殆んどがなまめですし食べた時に採って食べればよい生活だと思えます。それが椰子の実と交換に文明生活として食料の米が入って来ましたが米食には野菜が、必要なのにマーシャルには、それがありせんし食べようともしません。ごはんや甘い物がとても好物で椰子の金の代金は日用品、衣類と米、砂糖、煙草、紅茶、ミルク、魚肉の缶詰に替えられます。衣類は人前に入る時は必要ですが年中暑く裸の生活の方が楽です自然食料が多いようでした。もう椰子の実さえ採っていればよく、食べ物をさがす事も魚を採る事も



少くなりマーシャルの魚を日本人が取りに来て、缶詰にしてマーシャル人が買って食べていると云っています。働く事も少なくなり、油っこい甘い澱粉食が大好きですから太るのが当然ですし太って来ると増々動きにくくなります日中の暑い時はお昼寝、夜は月明りの海岸でのフラダンス等を楽しんでる生活です。羨しいような気もしますが、気楽な生活も自然的な生活の方が、よかったですのではないだろうかと思われました。海から採ったばかりの生魚を子供達は、私達が果物を丸かじりすきました。マジュロへ着いて間もない頃ホテルの前できれいなお嬢さんが二三〇センチ位の魚を二つ折にして赤い血を口元からたらし乍ら丸かじりをしているのを見、気がいかと思いましたが男の人は大きなカツヲを丸ごと食べてい

るのも見られるし、エビセ島では棧橋近くで鰻が沢山とれていました。が、子ども達が生きている鰻を貰い上手に頭を取り、皮をむき海水で洗って丸かじりで食べています。最高のお刺身と云うことになりかじりしているの少しいただき食べようとしたが、とても硬く歯がたちませんでした。煮たものは南風のような味でした。島民の旅行は大きな枕と椰子の葉で編んだ敷物やお米や鍋一ヶ缶詰等を持っている位です。島に着くと椰子の実のエキスを飲み、ご飯を炊き缶詰の魚か肉をご飯の上にかけて食べています。椰子の葉で編んだ敷物やエキスと一緒に食べていました。私たちはコンロ、ヤカン、ポット食器、食糧、寝具と何時も十四五の荷物がありますが、これすら最低必需品だけです。島民から見たら何と不便な人達だろうと感じられたのではないのでしょうか。これも南洋通の人に食料、その他持ったので助かりました。マーシャルでの生野菜は馬鈴薯と、玉葱だけ、それもマジュロ島だけです。島民の生活は食器は椰子の葉やパンの木の葉ですが、スコールの天然ジャワできれいに洗われてあります。使用済みは又自然に返せばよいわけでは

ます。目をむき歯を出してすぐみを見せていますが、豚の大ききま集まった人数で、家の格式がきまっているとも云われ、増々華やかになって来ていると云われています。魚の石焼きも御馳走になりましたが、身がしまらず脂肪が強く、私のこのみには合いませんでした。豚や鶏を放し飼いでいますが、殆んどが自家用としていますので、買う事は仲々むずかしく(一匹ごとの売買)持って行った食料で大体済ませました。鶏卵も三回さがし廻って買ったものが二回腐敗しており一回はゆで卵でいた。マジュロ市街自動車も通っているマーシャル一の繁華街を豚の親子が散歩していますし、マジュロの飛行場に週一回の飛行便がありますが、この時警官や消防自動車が出動します。彼等の一番の仕事は飛行場で遊んでいる豚を追い払う事だそうです。マーシャル行きの食料を用意している時、マーシャルには美味な椰子蟹や大きな海老が多く、すぐ誰でも採る事が出来ると浮田さんから伺いました。味がたつたのはマジュロのキッコ商の支配人(ハワイの二世)の夕食に招待された時従業員が船で離島に行つて採ってきた海老と伺いました。

休日、コーヒータム午前一〇午後二時に三〇分お昼休みとあいている時間も少いおわけです。慰霊祭を行った各島で夕食会を行いました。御飯や、味噌汁、お茶、その他日本各地の代表と思われた食品お酒、煙草、お菓子と少し宛ですが、品数は二十五六になります。少し宛皆さんに分けて御馳走しました。珍らしい日本食のパーティーと大喜びです紙皿やコップを用意して行きたりしたので、それぞれに盛り付けたりして南洋の色々の花も食卓(椰子の葉を敷きつめた)に飾り戦死なされた方々が、口ずさんだであろうと思われる各地の民謡や、唱歌のレコードをかけ、にぎやかな一夜を過ごしました。一面の星が輝きロマチックな南十字星が頭上に椰子の葉音、又リナの潮騒を聞きながらこんなのかな島で数千の軍人が祖国を守る為の決戦場だったのかと不思議に思われたり、又大きな大砲や飛行機の壊れたのが見えたり、コンクリートの建物が蜂の巣のようになつてこざれていたりする島でした。日本食で簡単に喜ばれたのがラーメンです。井も汁を少なくして、ノビきでもしたようになつたラーメンを紙皿に盛りつけた特別食です。脂肪の強いものが好きです。私が食べる白いご飯に味噌汁と漬物では、どうにもならないようでした。ラーメンはマジュロのホテルにはありませんが、お店でも殆んど見られませんでしたし、離島では始めて味わった人も多かったようでした。

戦地の想い出

愛知 中村 武夫

十月十九日午後七時からのNHKニュースの時間に、六ヶ月余に亘る南方マーシャル諸島遺骨取捨調査団の画面が出ました。

本場に御苦勞様でござ居ました。何と御礼を申し述べてよいのやら只々感謝致すのみです。

記録画面の中で痛々しい戰場の傷跡を拝見いたし、今更乍ら情ないやら、懐しいやらで胸一杯です。と申しますのも、私達は昭和十八年六月一日比島マニラに上陸し、バタン、コレヒドールの戦に参加して赫々たる戦果を樹てた先遣部隊に合流して、ルソン島の敗残兵掃蕩と島民の宣撫工作になり、一年余に於て転進命令を受け、マニラ港より旧潜水母艦日枝丸にて目的地に向け出発、途中指令待ちか……? トラック島湾内にて、二泊しクエゼリン島に上陸しました。

その島は海軍の指揮下にあり、第四艦隊の集結港でもありました。高射砲隊あり、戦闘機の寄港もある、我々陸軍部隊は主として陣地構築や対潜監視等々……、其のクエゼリン島にての隊生活数ヶ月にして再び転進命令軽装備という命であったので、各人各人はい口外なくとも心の中で思ったことは、米軍が上陸し、島の守備に当たった既存日本部隊に不利だったので我部隊は逆上陸をして米軍を全滅するのだ等艦内に放言がとんだ。暗夜にクエゼリン港を出港。

全速力で進む駆逐艦上我々兵にはその目的地すら分らん。戦友同志、語り合うも、総てが架空の事ばかり。何時間か過ぎたと思ふ時、突然、奇怪な情報が流れた。今更我部隊が逆上陸を敢行してもすでに上陸しておる米軍部隊に對抗しては玉碎よりなし……云々。

最寄の島に上陸して警備とのことらしく部隊は分散して、私の所属する第二大隊は、古木秀策中佐を隊長に、海軍少将舛田仁助閣下指揮傘下。一寸先さえ分らん暗夜に上陸した。

一夜明けて、この島がマーシャル諸島ヤルト環礁のイメージ島でした。上陸した翌日から敵の爆撃を受けはじめました。一週間後にクエゼリン島の軍官民玉碎の報を聞ききました。ヤルト環礁イメージ島及び周辺の島々も海抜〇米上陸当時は椰子の葉も茂り、立派な島であったが、爆撃を受ける度に椰子其の他の樹木まで吹飛び一目瞭然、端から端まで見通せるので敵が攻撃するには最適となつた。

そんな関係でもありませんまいが、私も二十年四月二日防空壕に退避中、至近弾により崩壊、重傷。幸い当時は医療品だけは確保してあったらしく早期に完治しました。爆撃下に病院はなく、医務室(防空壕内の)暮しは本心に細いものでした。左脚に一部後胎

症はありますが、そんな事は、亡き戦友の事を想い、又無事復員出来ました事等々で気にとめない事にしております。

徳原勇夫妻滞日中の日誌

昭和四十四年

五月三十一日(土) 何回か予定

の変更はあったが、徳原夫人が徳原氏に先行し、夜十時羽田着。佐竹幹事が出迎えた。三月頃から、本会で予約した第一ホテルに案内

した。現地当時から積る話は、山ほどあったが、お疲れではあり、夜も遅いのでホテルに送つてすぐ引返した。

六月四日(水) 長途の旅の疲れを休める暇なく御礼や、現地の様子を聞きたくて、築地の江戸銀(寿司屋)に案内した。久しぶりに味う本場の江戸寿司を絶賛しつつ、建碑に日系米国人の協力ぶり、そしてその後の奉仕については頭の下る思い、一同感激した。

誰も見ていない、太平洋の孤島で、このよう暖かいお墓のあることは嬉しい。会の在る限り、連絡をつづけて行かなければいけない。

六月五日(木) 第一ホテルでサイパンのホアキン、サブラン夫妻に会う。明日日本会に電話するつもりであったと聞く。突然ではあったが、徳原夫人と共に、鶯谷の笹の雪の豆腐料理に案内する。サブランさんはサイパンの国通信託統治局補給関係事務官であり、高等弁務官と親しいので、現地派遣員が出発の時から大変お世話になつた人である。派遣員の滞在期間

を三月延長する必要を高等弁務官に進言し、その場でビザを訂正する便宜を計って下さつた人である。

様々の豆腐を色々味つけした料理が口に合つたらしく、大変喜ばれた。あの頃から少しも変らず、会員の方々がマーシャル諸島に行きたい人があるならビザ(入国許可の査証)を、お送りしますということを繰り返された。多少滞在日数を見込まないと離島には行けないがグアム島、トラック島、ボナベ島、クサイ島、クエゼリン島(飛行機で寄るだけだが)、マジユロ島などミクロネシアの島々を訪れた方は歓迎される。

六月八日(日) 横浜に入港中のガンナースノットを徳原夫人と共に訪問した。本会派遣員がマジユロ島往復のときの乗船の船長デブラムさんが現在、この船の船長である。クエゼリンに贈る荷物をお願いした。

六月十四日(土) ラリック・ラタック号、本会派遣員がマジユロから離島、タラワ、マキン、ナウル、オニヤン島を廻る大部分を使用した船が、横浜に入港したので、徳原夫人と共に訪問した。あの頃の礼をのべ、船員各位の健康を祈つた。

七月二十日(日) 徳原夫人から「徳原を大阪空港に迎えたあと二、三日大阪で過ごし、本日午前横浜のニュー・グランドホテルに着きました」とのごことであった。九州、四国の旅行計画をやめ、すきな野球を見に来たとのこと、早速ホテルを訪問した。クエゼリンのマサル、フクダさんから本会に贈つて下さつたアルバムを頂戴した。

七月二十五日(金) ホテル、オオクラに夫妻を訪ね、新橋の台湾料理ビーフン東に案内する。脂肪の多い豚料理がお気にいつたらしい。

七月二十八日(月) 夫妻と共に毎日新聞本社を訪れ、学芸部で現地の近況を紹介する。

七月二十九日(火) 本会会長から夫妻を原宿の水交会に招待する石橋湛山夫人外本部役員或は会員中福岡、岐阜等からも参加して下さる方もあり、団樂の中に、夏の夜の更けるのも知らず、南洋の話に花が咲いた。

七月三十日(水) 徳原氏の熱望によって築地の魚がしの威勢のいい早朝の魚のせりを案内した。

八月三日(日) 夕刻夫妻を浮田宅に招待する。明日羽田発のお名残にとささやかなパーティーを開く。徳原氏が日本の住宅を見た希望をみたすには粗末ではあるが、アコーディオンの伴奏で、昔なつかしい日本の歌の合唱は、印象的であったらしい。

八月四日(月) 午前十時、徳原夫人家族、本会役員、会員多数見送る中を日航定期航空便でホノルルに向つて去つた。

七月二十日(日) 徳原夫人か

中部太平洋諸島学生調査団について

本 部 編

昨年六月下旬本部に「今春中部太平洋諸島学生調査団という学生のグループが出来てマニヤル諸島やギルバート諸島に行く計画を樹てている。あなた方の遺族会の行動が参考になると思うので、指導しやつて下さらないか」と共同通信本社から問合せがあった。学究にながしの間合せがあった。早と考え快諾した。早速このグループの連中が本会に見えた。米谷常夫君(团长日大) 青山 秀君(文理大) 古沢克己君(専修大) 海老沢鉄男君(日大) 村上雅幸君(東京写真短期大)の五人。何れも積極的な健康的な好感のもてる青年ばかりであることがまづ私に喜びを与えてくれた聞けばアルバイトで知り合ったこの数名が、大きな希望をもって中部太平洋方面における。

航空便を利用するとしてもマリアナ諸島、トラック諸島、マニヤル諸島、ギルバート諸島を目的地とするとあつては二月月では不可能と考へざるを得ないので、「それは結構です。行って来なさい」とは云へなかつた。外国旅行ブームで、今では誰でもがロンドンにもワシントンにも簡単に往ける御時世である。然しこれは日本の官庁や旅行会社が専門の立場で交渉を重ねて路線ができているので旅行者自身はその苦勞をしないですむ。だがタラワなどへ行きたい人を世話してくれる旅行社は一つもない。本会の場合これだけでも随分苦勞を重ねた。日本領土と違つてこれらの地域は外国の信託統治領乃至は殖民地である。相手国の官庁、民間機関と事務的の連絡、意志の疎通がつくまでには三月や四月かかる。学生調査団は船便のこと、確め、船室の予約もすませ、タラワに一ヶ月滞在すれば次の船便のあることも調べたと云う。そこでこれをとめることは、場合によつてはこの行動を妨害するよう思われとも心外なので、不親切ながら壮挙を祝した。そして私等がウキーク長官の好意によつて海岸広場に建てた慰霊碑の写真をとつてく

るよう御願ひした。学生調査団は八月十三日羽田空港発、サイパン、グアム、トラックを経て、マジュロに着きそこから船でタラワ島に着いた。早速上陸の用意をしたところ思いがけず上陸不許可の指令をうけた。团长はその理由を知らないという。若い人だけに残念であつたことはよく判る。埒があかないので、青年の意氣もだしがたく、船員に混つて上陸したところ直ちに逮捕され、場所もあるうに留置場に入れられ、すぐ本船に送還された。そしてその日の夕刻タラワを出港させられた。本会の現地派遣団の訪問状況は環礁8号にのせ、その翌年タラワを訪問した水落さんの報告も同号で、又昭和四十四年の二十五周年記念行事に招待をうけたことは環礁9号の記事の通り親切なタラワ島である。その招待状をうけてから十ヶ月もたないのに、調査団もわからないと云うが、本会はおそらく解せない。依頼した慰霊碑の写真どころか戦跡見学も出来ず入港即日出港という結果に終つた。タラワ島に建立予定の慰霊碑の材料はマジュロまでは持ち帰つたが日本に持ち帰りもならず、了解を得てマジュロ島のピカリエット部落に建立した。九月十九日羽田空港に着き、その後九月二十九日前後地方新聞に「マジュロ島に慰霊碑、本県からも記念板南洋学生調査団帰る」という記事が出たので、二、三の会員から事情の問い合わせがあつた。新聞には諸種の事情があつて、タラワ島でのことには触れていないらしいが外の地方新聞にも同様の記事が出て不審に思われる会員もあると思われるので、この事実をお知らせした次第である。

寄附者芳名

(二二名)

毎回本誌上御芳名を掲げ御礼申上げております通り、今回も左のとおり、多数の篤志会員その他や会員の皆様から多額の御寄附をいただきました。厚く御礼申上げます。ここに掲げました方々からは、この外に四十四年度迄の会費は全部いただいておりま

す。中には四十五年四十六年四十七年と先々までの分をお送りつたものもあります。現地建碑のため全国都道府県からいただきました助成金補助金会員の皆様から建碑のための寄附金の収支決算はおわかりましたので四四、一二、三一をもつておわります。昭和四十四年決算報告の際報告させていただきます。

会員の声なき声から会員皆様のお喜びいただいて居る御様子や、寄附者芳名の実績によつてわかる経済的の御協力の実情を見て、会長はじめ役員一同大いに張り合いを感じ、創立当時樹てた本会の目的を長く貫くよう、一層努力をつづける覚悟でございます。今後共お力添えをお願いいたします。(昭和四四・六・一から昭和四四・一〇・三二までに入金した分)

寄附額 芳名(敬称略) 篤志会員その他 三二〇〇〇 徳原勇殿夫妻 一〇〇〇〇 珊瑚会殿 五〇〇〇 目黒袈裟喜殿 三〇〇〇 保田昌宏殿 二〇〇〇 竹浜健造殿

◇北海道 一四七五 父 沼山長一郎 一〇〇〇 父 西村保 六二五 妻 田村ヨシ 五〇〇 妻 白山光枝

◇山形県 一〇〇〇 母 大井きよの 一七五 母 赤塚ぎん

◇福島県 二〇〇〇 父 遠藤寛栄 一〇〇〇 父 渡辺卯一 四〇〇 兄 八木沼与三 一五〇 父 吉田肇

◇新潟県 一〇〇〇 兄 安中久雄

◇岩手県 五〇〇 母 小杉リサ

◇青森県 一二七五 妻 工藤ハナ 一〇〇〇 兄 池田精治 二七五 姉 伝福ちあ

- 二二九三 長男 知念 幸栄
- 七一四 母 津嘉山 茂
- 五七〇 妻 上原 キヨ
- 五三三 妻 前原 カメ
- 四二〇 妻 浦崎 ナエ
- 二一四 妻 野原カマド
- 一七七 妻 川平 タケ
- 七四 妻 新垣 ハル
- 七二 妻 宮城 ツル
- 三八 妻 目取真ツネ

訂正 環礁8号寄附者芳名中、愛知県の犬見のびは大見しのぶの誤、謹んで訂正致します。

事務局だより

○木村久子幹事郷里元御移転
本会本部役員として創立当初か

訃報

村上本会々長令夫人きみ子様には、前々日まで平素とお変わりなくお過しでありました。七月十九日突然心不全症の発作により、入院せられ七月二十日、午後六時御永眠になりました。御葬儀の行われました日の夕刻前日の新聞によって、この旨を知り二十四日私と佐藤常任幹事相前後してお悔みに参上いたしました。御発病後間もなく、亡くなられましたので、御見舞にもあがれず申したわけでありました。御生前本会によせられました御芳情に対し厚く御礼を申し上げますと共に、御冥福を心から御祈り申し上げます。

ら、献身的の御努力をして下さいました木村久子様が、今回御家庭の御都合で郷里鳥取県へ御移転になりました。

○御送金に対する領収書について

環礁5号の事務局だより及び従来の振替用紙に、郵便局から渡される領収書を本会からの仮領収書とし環礁の寄附者芳名欄で確認されるようお願いいたしました。所が四三年から金費制となりましたので寄附者芳名の外に金費納入者の氏名を掲載すると、大事な紙面が少なくなりす。このため昨四四年はじめから、すべての御送金に対し領収証をお送りすることとし例外なく、はがきで領収書を送っております。なお寄附金については寄附者芳名に掲載し、その旨御承知下さい。

○戦死者に贈られる勳章をまだ受けていない御遺族へ

勳章については、環礁8号11頁で、かなり詳しくお知らせしました。今回厚生省の担当の方に、お尋ねしましたところ、勳章はすでに八十五%の方にはお渡し済みであるとのことでした。昭和四十年に死没者叙位叙勳という調査がはじまったときは資格者百万人余と聞いていましたので、かれこれ八、九十万の御遺族は受領済みということになりました。

お宅では勳章受けとられましたか。もしまだ受とっておらず、是非受けたいという方は、同封はがきの所定欄にその旨御記入の上、本部あて、御申越し下さい。本部

から担当の御役所にお尋ねしその状況をお知らせいたします。
○振替用紙を封入しお送りしたわけ

今回は全部の方に振替用紙を封入しました。手紙にこの用紙が入っているのはどなたもあまりいい気もちでありませぬことはいく判ります。特に四十五年以後の会費を既にお送り下さった方などは定めし御不決の気をおもちと思えます。四十四年中にも二、三の方から、そのような御苦情がありました。しかし、本部では四十五年の会費はいただいても、宿泊費の前納とか、写真代の送付とか送金の必要のあることがありますので、全部の方にお送りしたので、一人一人要否を見きわめて区別することはできませんので、あしからず、お気を悪くならないよう、お願いいたします。

正月号は新年度の会費をいただくかなければならない時機であり、九段会館の宿泊費とか、旅行参加の方はその前納金とかあって、この用紙を必要とする方が多いと思えます。単にこんな気持ちでお送りしているのでは他意ありませんことを申し添えます。

○環礁第一輯製作について

環礁の何号がないから送れという御注文が近頃相当数あります。一つには紛失、もう一つは郵送の途中汚れたので、よいもので揃えておきたいというものだと思います。幸い本部には一号から全号相等的の在庫がありますので御希望の方に環礁一号から十号までの合

新春を寿ぎ

謹んで新年の

お慶び申し上げます

昭和四十五年元旦

◎本会役員及び篤志会員

名誉会長	朝香 鳩彦	監事	昼間 楽平
顧問	石橋 湛山	篤志会員	有馬 成甫
相談役	朝香 孚彦	篤志会員	板垣 徹
会長	村上 義一	篤志会員	大野 克一
副会長	浮田 信家	篤志会員	嘉村 栄
常任幹事	佐藤 宗丞	篤志会員	瀬沼 光久
常任幹事	橋口 昭利	篤志会員	土屋 太郎
幹事	秋山 正清	篤志会員	中島 昌彦
幹事	井上 賀雄	篤志会員	中田 虎一
幹事	宇田川 ヒサ	篤志会員	成田喜代治
幹事	木村 久子	篤志会員	長谷川栄次
幹事	国松ふみ江	篤志会員	長谷川 敏
幹事	小泉 文江	篤志会員	林 幸市
幹事	佐竹 エス	篤志会員	松平 永芳
幹事	萩原金次郎	篤志会員	村岡 達志
幹事	山浦 信子	篤志会員	安藤 小夜
幹事	岡野 正文	篤志会員	白鳥 梯子
幹事	末広 正男	篤志会員	本木 光江

本部

郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話(東京)三三六四番